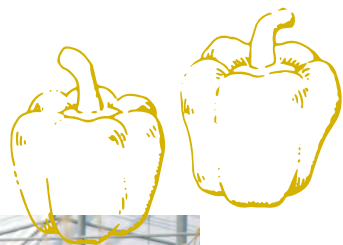


「実も大きくて肉厚。良い出来だ
と思います」と笑顔でハウスを案
内してくれたのは田淵裕希さん。
今年度からパプリカを中心とした
自営就農を開始しました。
和歌山県で働いていた田淵さん
は、自営就農を目標に移住先を検
討。就農支援制度が充実している
飯南町が目にとまり、移住を決心
しました。
移住して2年間は農業研修制度
により、研修先農家で農業の知識や
パプリカ栽培の技術を学んできま
した。研修を終え、念願の自営就農
を開始。「自分でスケジュールを決
め、全部一人で作業しないといけな
い。研修とは違い不安もありまし
たが、色づいていくパプリカを見て安
心しています」と田淵さん。
町のリースハウス事業により
設置した4棟のハウスには、所狭
しとパプリカが植えられていま
す。
「果実が日焼けしないよう遮光
シートで日差しを調整するなど、
常に目が離せないのが大変。だか
らこそ、箱いっぱい収穫したパ
プリカを見ると嬉しい」と話す田
淵さん。今年の出荷量は約8トン
を見込んでおり、夏場は収穫の最
盛期を迎えます。

パプリカで自営就農

Interview

●新規就農者 田淵 裕希 さん(上来島)



オリジナルパッケージで包装され町内のスーパーに
並ぶいいなんパプリカ

たわわに実るパプリカは、片手
に収まらないほどの大きさ。昼夜
の寒暖差で実はゆっくりと色づく
ため、他産地よりも大きく、肉厚に
育ててから収穫しています。高品
質の「いいなんパプリカ」の評判は
高く、田淵さんも複数の出荷先を
予定しています。
田淵さんは、パプリカで自営就
農している先輩たちと情報交換
し、切磋琢磨しながら生産に取り
組んでいます。「パプリカの産地と
いえば飯南町と言えるほど、町全
体の生産量を増やしていきたい。
一緒に頑張る仲間が増えると嬉し
い」と田淵さんも産地化に向けて
意気込みます。

飯南町を全国的な産地に



まいにちを彩る いいなんパプリカ

約20年前から栽培を推進している「パプリカ」。町内の生産量は年間40トンにまで
増加し、国内有数の産地となりつつあります。
栽培支援とブランド化が進む、パプリカ生産の様子を紹介します。



新たな特産品へ

約20年前、特産のメロンの生産量
が低迷し、新たな生産奨励品目とし
て目を付けたのが「パプリカ」。7月
〜10月に収穫期を迎え、食卓を鮮や
かに彩ります。

パプリカは国内で流通する9割
以上が外国産で、10月ごろから輸入
が本格化。夏場は供給量が少ないた
め、国内産の需要が高まり、市場で
は高単価で取引されています。

町は令和5年から「いいなんパ
プリカ」のロゴマークを作成し、専用
サイトでのPRを開始。ロゴマーク
をあしらった個包装パッケージに
変更後、売上も一段と増加し、今年
度の出荷見込量は48トン。販売額約
4800万円を見込んでいます。

パプリカで新規就農

リースハウス事業など町の支援
も活用し、生産農家は年々増加。今
年度は11戸となり、うち5戸はI
ターンして農業に挑戦する新規就
農者です。

町は、新規就農のための経営資金
支援を行うほか、県東部農林水産振
興センター、JAと連携した巡回指
導を実施。新規就農者が安心して生
産できる体制を整えています。

町が実施する就農支援策

リースハウス団地整備事業

町がハウスを整備し、使用者はハウス使用料を
負担。初期設備投資を軽減

農業後継者育成支援事業補助金

機械導入の1/2補助、施設整備の2/3補助

経営開始資金(補助金)

農業経営開始から最大3年間、年間150万円を
交付

※このほか国、県の補助事業もあります。



リースハウス団地整備事業により設置されたビニールハウス